馬耳東風

わが国の少子化は，社会経済活動の持続性の観点から大きな課題として浮上し，多角的なアプローチが図られている．日本経済新聞は，2040年1,100万人の労働力不足の見込みを報じている．過般都内の総合大學で少子化について学術研究集会が開催され，将来人口の維持が少子化現象の中で，社会が直面する課題の背景・原因・影響・対策などの多角的な知見の検討が行われた．現在進行中の首都圏一極集中は地域の過疎化をもたらし，日本社会の縮小という寂しい方向へ動き出しているように見える．古くからの文化や習慣，子育てと仕事の両立，育児の負担など複雑に絡んでいる．少子化は医療・介護・年金と並ぶ生存権の関係だけでなく，憲法13条の幸福追求権の保証が新しい学説となってきた．人口の構成は必然的に企業環境に影響してくる．高齢化に焦点を合わせた企業活動が多くなり，子ども相手の事業は必死に子ども集めに奔走（ほんそう）し，教育機関の縮小も目立ってきた．背景となる財政運営では社会保障の負担世代（若齢世代）と受益世代（高齢世代）で後者の一方的な上昇が問題となる．しっかりした推計のもとで負担者が働く意欲を失わない制度が必要になり，総動員した施策の確立が求められる．長期的な財政推計を少子高齢化へ充実させた政治施策が待たれる．子どもの権利・利益を適正に確保する努力が継続する仕組みが必要となる．乳幼児教育は遊びを原点とする体験学習が基本であり，これを忘れてはなるまい．また，女性に労働，出産，育児，教育，介護を負担させる社会は，近代化で少子化はさらに進んでしまう．妊娠出産の社会医療化は確実に進行しているのだ．

このテーマに獣医学の立場で東大・松田二子准教授（獣医繁殖学）が「家畜繁殖―ヒトによる命の管理と操作」の講演をされた．倫理的制約の少ない生産性向上の名のもとに，高度な管理・操作を追及した牛では，結果として受胎率の低下を招いたが，特定オス精液の偏りによる多様性の問題やエネルギー不足が報告され，極度に人工化した環境での繁殖性低下の可能性は否定できないとしている．家畜化の歴史から人工授精のリアルな絵図を用いての分かりやすい講義は参加者の関心を呼んでいた．また，「ソフィー・ルイスの議論を参考にした家族〈制度〉を解体する」という教育研究界からの提供もあり問題の広さが知らされた会であった．

自然界の種の絶滅がささやかれているが，小菅正夫旭山動物園前園長が現場の命を預かる動物達がどんな生き方をするかを詳細に観察した動物園記録（動物が教えてくれた人生で大切なこと．河出書房新社）は，誕生から死に至るまでの生き方を人と比較しながら，いのちを輝かせ子孫を残し，種を絶やさない生きることへの執念の生きざまを実務経験から生々しく記している．動物が教えてくれるこの輝きは，複雑な社会を生きる人々に本気で生き抜く術を教えているようだ．

国の人口問題研究所は2040年84％の推移予測をしている．獣医学・獣医師が，少子化時代にいかように対処するのが望ましいかを真剣に考えてみたいものだ．

（柏）